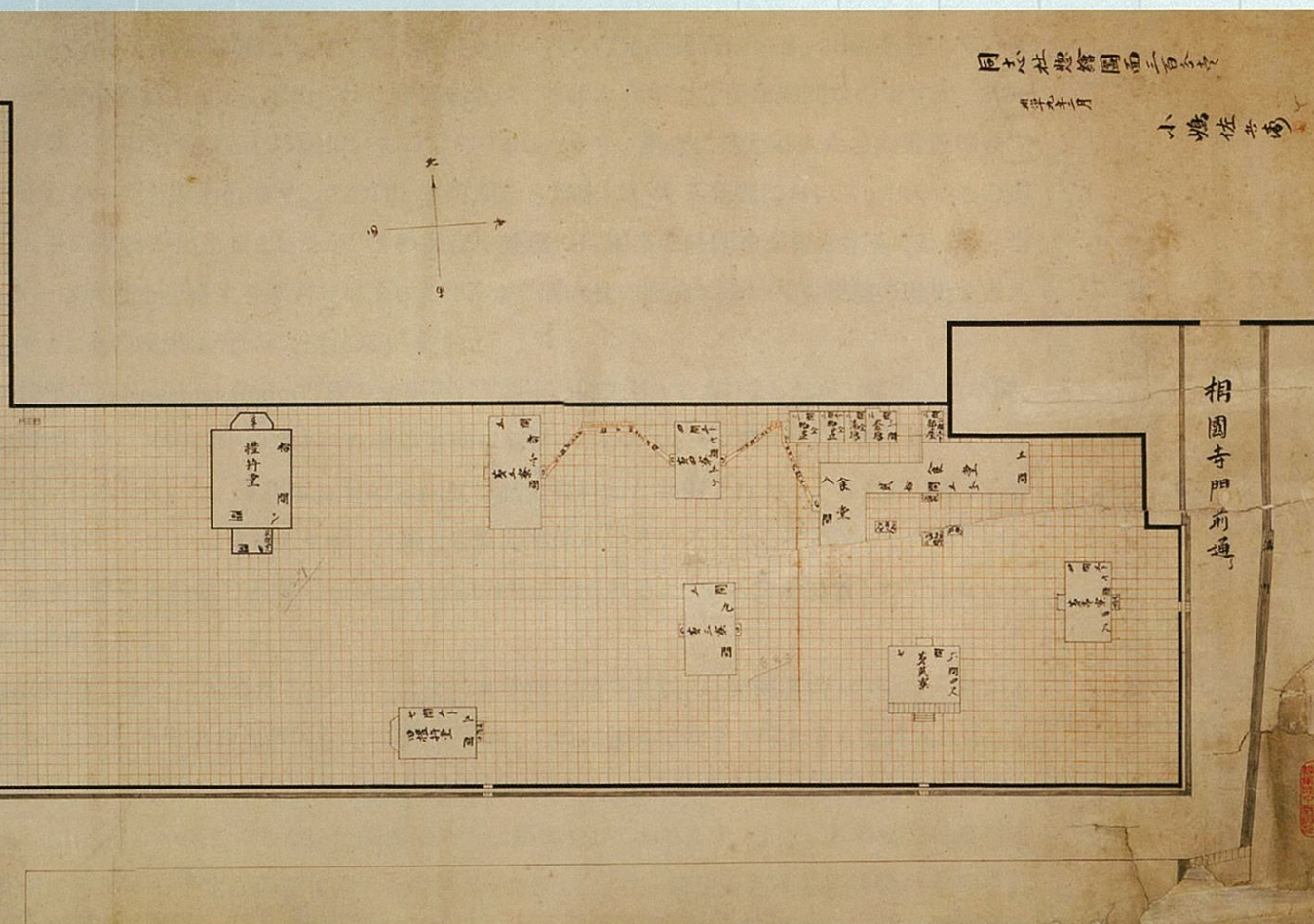


同志社大学

同志社社史資料センター一報



第7号
2010年度

1. 巻頭言:2010年度の報告にあたって
2. 相国寺旧境内と薩摩藩邸跡の発掘調査
3. 資料業務
4. 展示
5. 公開講演会
6. 研究活動
7. 第168回新島襄生誕記念会
8. 新島旧邸
9. 委員会

2010年度の報告にあたって

同志社社史資料センター
所長 露口卓也

2013年度の文系学部統合にむけて今出川キャンパスの発掘調査はいま、山場を迎えています。中学校の移転をまって進められた発掘調査は、昨年と今年が主要な期間なのですが、2010年度の夏と冬の気候はことに厳しいものでありましたから、調査に携わる人たちの労苦は並大抵ではなかったと思われます。この間、室町期から幕末にいたる発掘において、いくつもの遺跡や大量の遺物が出土しましたが、その保存や整理には相当の時間を必要とするでしょう。当センターは調査を管轄する部署ではありませんが、同志社の歴史においても校地の歴史を考える上でも、その成果は大いに注目しています。

2010年度のNeesima Roomの秋の企画展は「幕末と同志社」でありましたが、幕末の数年間、今出川キャンパス内にかつてあった薩摩藩邸に着目したもので、その際に歴史資料館にずいぶんお世話になりました。本年度も秋の企画展は歴史資料館と共催で行おうと考えています。管轄する内容にちがいはありますが、今後とも協力関係をいろいろなところで作っていきたいと思います。歴史資料館との協同で同志社が学内外に知られるような工夫ができるのではないかと考えるからです。

2010年度に新たに始めたこととしては女子大学博物館学芸員の「館園実習」の受け入れがあります。これまで大学の実習は行ってきましたが、それに加えて女子大学からも受け入れることになりました。実習では同志社の関係資料を取り扱ってもらおうのですが、学生たちに同志社を感じてもらえるよい機会にしたいと調査員たちは指導をしております。また、本年度では資料室の整備に着手する予定なのですが、そのスタッフとして学生・院生を起用して資料の整理を行います。数年間にわたることだと思いますが、これまで手が廻りかねていた資料室の整備に着手できるようになったのはうれしい限りです。

当センターは、新島遺品庫、新島旧邸、Neesima Roomを管轄する一方で、4つの資料室をもち、業務内容は多様化しています。その業務を行うには組織的な対応をしなければなりません。2011年度はセンターのスタッフがこれまでよりは整いましたから、よりスムーズに運べるのではないかと考えています。センターへのご意見やご要望などをお寄せいただければと存じます。

相国寺旧境内と薩摩藩邸跡の発掘調査

2013年からの今出川キャンパス校舎新建設に伴い、8月16日から5次の発掘調査を開始しました。今出川キャンパスは、相国寺の旧境内南西部に位置し、幕末には薩摩藩邸(二本松屋敷)が造営されたところです。相国寺は永徳2年(1382)に室町幕府第3代将軍足利義満(1358~1408)によって創建されました。相国寺はその後、火災や戦乱に幾度となく見舞われましたが、都度再建されてきました。現在ある中心建物の一つである法堂は、豊臣秀頼(1593~1615)の寄進によるもので、この法堂と浴室以外は江戸時代以降に造営された建物です。薩摩藩邸は文久2年(1862)に相国寺から土地を借りて屋敷地を構えました。幕末京都の薩摩藩の拠点として、史料に数多く登場します。この後同志社が程なくして所有するところとなっていきます。

2011年3月末をもって5次の調査は終了し、4月から6次調査を開始しました。ほぼ1年間かけて調査を行います。5次調査の面積は約7,500㎡と大規模で、遺構・遺物が多数出土し、多くの成果をあげることができました。遺構・遺物の大半は相国寺に関するもので、わずかながら薩摩藩邸・同志社に関するものも出土しました。その遺物に関してみていくと、出土した遺物はコンテナ箱(54×34×15cm)にして約2500箱と膨大な量にのぼりました。2011年3月末段階では、その半分強の遺物洗浄が終了したところで全体像を把握するには至っていませんが、現段階の整理途中におい

て注目すべき資料を相国寺・薩摩藩邸・同志社それぞれで紹介したいと思います。

相国寺

「鹿苑衆寮□□」の墨書を底部に記した白磁の皿(15世紀)が出土しました。

2文字が欠損していますが、残った文字を解読していくと「鹿苑」は鹿苑院、「衆寮」は僧侶が住む建物を意味すると考えられます。つまりは鹿苑院内にあった僧侶の住房が存在していたこととなります。鹿苑院は足利義満と縁が深く、室町時代にあっては禅宗五山を統括する有力な塔頭でした。この他「鹿」の墨書を記した土器が2点確認でき、これらも鹿苑院を記すものと考えられます。これらの資料をもってこれまで漠然と推定がなされてきた鹿苑院の位置が確定的となりました。



「鹿苑」の名が墨書された白磁



丸に十字の入った紋様の染付茶碗

薩摩藩邸

丸に十字の入った紋様をあしらった染付の筒形茶碗(口径6.6cm、高さ5.1cm)が1点出土しました。産地同定については今後の課題ですが、時期は幕末頃で問題ないと理解される資料です。紋様は島津家の家紋であり、かつてここに薩摩藩邸が存在したと考古学的に証明する資料です。同志社敷地内には薩摩藩に關係する遺産は現在なく、1点とはいえこの資料は混迷する幕末政局動乱の中で薩摩藩が活躍したその足跡を示す貴重な資料といえます。

同志社

文字の全容把握までには至っていないのですが、「新島先生之遺品」と呉須で記された特異な形をした陶器が出土しました。一緒に出土した他の遺物とともに日常品とは考えにくい土器で、特殊な用途に使われたものと考えられます。用途については文字の判読同様、

今後さらに調査を進めていきますが、かつて付近に理化学教室が存在していたことを考えあわせると、理化学実験の際に使用したものではないかと推察されます。こうした同志社關係の資料も今回出土しており、同志社の歴史を考える考古学資料として極めて貴重といえます。

今回の報告は、出土した遺物の一端であり、今後さらに多くの成果がでてくるものと思われます。ミクロとマクロの両視点をもちながら、遺構・遺物を統合した遺跡としての成果を今後報告書という形でまとめていく、気の遠くなるような大変な作業がこれから始まりますが、整理過程で興味深い成果がでたら、随時公表していきたく思います。

浜中 邦弘

同志社大学歴史資料館准教授



新島先生の文字がみえる陶器

資料業務

1. 資料整理

社史資料センター網別蔵書冊数(逐次刊行物は除く)

(2011年3月31日現在)

	00	10	20	30	40	50	60	70	80	90	合計	比率
0 総記	1	49	200	36	79	3	32	24	106	1,563	2,093	19.6%
1 哲学	15	8	172	32	25	145	44	20	81	1,402	1,944	18.2%
2 歴史	34	1,036	104	39	0	32	0	0	910	202	2,357	22.0%
3 社会	112	163	146	139	9	12	153	1,857	14	24	2,629	24.6%
4 自然	29	22	14	10	10	19	32	23	20	58	237	2.2%
5 技術	10	12	52	8	7	4	5	4	10	14	126	1.2%
6 産業	12	23	1	0	0	2	4	23	10	3	78	0.7%
7 芸術	23	2	75	9	13	20	41	7	24	8	222	2.1%
8 言語	8	69	17	67	9	4	0	2	1	10	187	1.7%
9 文学	31	559	116	84	23	2	0	0	2	1	818	7.7%

※日本十進分類法による分類

総冊数 10,691冊

2. 資料提供(写真資料を中心に)

資料提供日

2010年

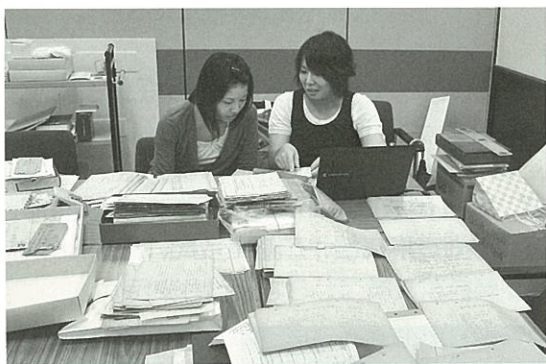
- 4月 15日 小学館SAPIO編集部：『SAPIO』7号に掲載／新島八重写真1点
- 20日 茶道資料館：平成22年夏季展「千家茶道の継承 圓能斎鉄中宗室」で展示、及び図録に掲載／千宗室関係資料2点
- 26日 NHK出版：鈴木由紀子著『女たちの明治維新』(NHKブックス)に掲載／新島八重関係写真3点
- 6月 9日 茶道資料館：「千家茶道の継承 圓能斎鉄中宗室」図録に掲載／新島八重関連写真4点
- 11日 流通経済大学三宅雪嶺記念資料館：企画展「三宅雪嶺が受け取った著名人からの書簡」展でパネルに使用／小崎弘道家族写真1枚、海老名弾正関係写真1点
- 7月 23日 浦河町立郷土博物館：企画展示でデータ使用／新島襄肖像写真1点、沢茂吉肖像写真1点
- 28日 インク・インコーポレーション：『洋館さんぽ』(グラフィック社)に掲載／新島旧邸関連写真6点
- 8月 13日 どりむ社：家庭学習教材「小学ポピー」別冊付録『あそびんぴっく』に掲載／新島旧邸関連写真1点
- 9月 7日 ダイヤモンド社：「週刊ダイヤモンド別冊『歴史』2号～47都道府県 郷土の偉人～」に掲載／山本覚馬肖像写真1点
- 16日 浦河町立郷土博物館：常設展示のパネルで使用／新島襄肖像写真1点、沢茂吉肖像写真1点
- 21日 集英社マリソル編集部：月刊誌『marisol』12月号掲載「人物研究～幕末の女性たち～」記事で掲載／新島八重肖像写真3点

- 10月19日 コーポレートセールス部企画制作課：オルビス化粧品会員誌「hinami」3月号所収「時代を
生きた女たち」ページに掲載／新島八重肖像写真1点
- 12月 2日 京都工芸繊維大学美術工芸資料館：企画展「京都のモダニズム建築1920'～1970'」展
でパネルに使用、及び目録に掲載／アーモスト館関連資料22点
- 15日 京都工芸繊維大学美術工芸資料館：企画展「京都のモダニズム建築1920'～1970'」展
でパネルに使用、及び目録に掲載／アーモスト館ゲストハウス献堂式写真1点
- 27日 吉備ケーブルテレビ新見支局：正月番組「社会福祉に生涯を捧げた2人の男 山室軍平と
留岡幸助」にて使用／同志社関連写真3点
- 同日 山中湖文学の森 徳富蘇峰館：山中湖村広報に掲載／同志社英学校関連写真1点

2011年

- 1月17日 第一学習社：高等学校倫理教科書（文部科学省検定）に掲載／新島襄関連写真1点
- 21日 山川出版社：文部科学省検定教科書（高等学校日本史）へ掲載／新島襄肖像写真1点
- 26日 淡交社編集局：『茶人交友抄』（淡交社）に掲載／新島八重関連写真3点
- 2月 9日 島津創業記念資料館：常設展示パネルに使用／新島襄関連写真2点、山本覚馬関連写真1点
- 24日 大阪同和・人権問題企業連絡会：広報誌「ホットライン21」No63掲載「歴史人物探訪」に
掲載／新島襄肖像写真1点、新島八重肖像写真2点

博物館実習 —同志社女子大学から「館園実習」を受け入れ—



本年度は、大学の博物館実習以外に、女子大学より同実習の「館園実習」を受け入れた。

受け入れ人数は2名で、8月に9日間実習を行った。初日に大学アーカイヴズに関わる説明と、センター内施設や図書館貴重室の見学を終えた後、実習生は社史資料調査員の仕事の補助を行った。主な実習内容は、中学校からの資料移管に関する諸業務と資料整理、法人事務室が担当する理事会記録デジタル化

に伴う理事会資料の整理とリストのチェックなどである。机上の業務だけでなく、資料の下見、運搬、整理など、資料に関する一連の業務を経験する実習となった。

大学からの学外実習の受け入れは12名で、3つのグループに分けて、8月の第1・2・4週の各週3回、計9回にわたって「同志社社史資料の調査と整理」をテーマにセンター内で実習を実施した。



展 示

2010年度は2回のNeesima Room企画展(特別資料展示を含む)を実施し、同志社創立135周年記念事業、ホームカミングデー2010、新島会館、ラーネッド記念図書館、同志社京田辺祭(クローバー祭)への展示協力などを行った。

1. Neesima Room企画展

・春学期(第37回企画展)

2010年4月1日(木)～7月31日(土)

テーマ:「目的の大なる人物を
—創設期の学生たち—」

来訪者数:延べ2,261名

実施日数:108日



・秋学期(第38回企画展)

2010年10月1日(金)～

2011年1月31日(月)

テーマ:「幕末と同志社—薩摩藩邸址にあって—」

共 催:歴史資料館

来訪者数:延べ3,679名(特別展を含む)

実施日数:96日(特別展を含む)

2. 特別展

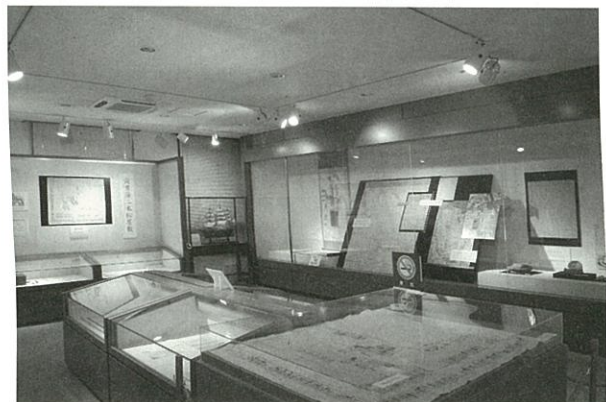
・特別資料展示

2010年11月26日(金)～12月22日(水)

来訪者数:延べ802名

実施日数:19日

資料協力:鹿児島県歴史資料センター黎明館、国立国会図書館、京都府立総合資料館、宮内庁書陵部、小倉嘉夫氏、相国寺、尚古集成館、二條基敬氏、最乗山鳳林寺、玉里島津家、早稲田大学図書館



3. 展示協力

同志社創立135周年記念事業

(1)「新島襄と同志社」展

2010年5月26日(水)～31日(月)、大丸京都店6階多目的ホールにて開催。



(2)「維新の志～精神的な近代化に捧げた新島襄の志～」展

2010年9月18日(土)～10月21日(木)、六本木アカデミーヒルズ49階ロビーにて開催。

ホームカミングデー2010

2010年11月7日(日)開催のホームカミングデー2010で、社史資料調査員による展示説明会(3回、各30分程度)をNeesima Roomで実施。

新島会館

「同志社の表徴(しるし)ーエンブレムとデザインー」(2010年4月～9月)ならびに「新島八重の生涯ー進取と矜持ー」(2010年10月～2011年3月)をテーマに写真パネル20点を展示。

ラーネッド記念図書館

「新島八重の生涯ー進取と矜持ー」(2010年4月1日(木)～7月31日(土))及び「目的の大なる人物をー同志社創設期の学生たちー」(2010年10月30日(土)～2011年2月28日(月))に展示協力。

同志社京田辺祭(クローバー祭)

2010年10月30、31日(土、日)開催の上記企画の実行委員へ資料提供。

地域協力

2011年2月22日(火)、京都市立第三錦林小学校6年生の学外実習で社史資料調査員が尹東柱詩碑ならびに鄭芝溶詩碑を説明。



公開講演会



Neesima Room企画展のテーマに添った講演会を春学期と秋学期に実施した。

1. 春学期 (第37回Neesima Room企画展)

演 題: 『目的の大なる人物を』にふれて
—現代学生との振幅で—

講 師: 真銅 正宏 (文学部教授・学生支援センター所長)

日 時: 2010年6月12日(土)

場 所: 寧静館5階会議室

参加者: 43名



2. 秋学期 (第38回Neesima Room企画展)

演 題: 「島津家と近衛家—京都から薩摩への文化伝承—」

講 師: 田村 省三 (尚古集成館館長)

日 時: 2010年12月11日(土)

場 所: クラーク記念館2階クラーク・チャペル

参加者: 131名



研究活動

機関誌の刊行や第一部門研究(新島研究)および第二部門研究(同志社社史研究)の研究会は次のとおりである。

1. 第一部門研究(新島研究)研究会(代表 本井 康博)

第104回例会	2010年4月12日(月) ・①『『新島研究』101号論評会 司 会：太田 雅夫 報告者：井上 勝也、北垣 宗治、本井 康博、森永 長壹郎、大鉢 忠 ・②『『新島襄の第1回の回心と2つの自伝』要約』 報告者：明楽 誠
第105回例会	2010年5月10日(月) ・「明治初期児童雑誌『ちゑのあけぼの』と同志社英学校—編集者の軌跡をたどって—」 報告者：柿本 真代
第106回例会	2010年6月14日(月) ・「山本覚馬の長崎行について」 報告者：竹内 力雄
第107回例会	2010年7月12日(月) ・「新島襄の足跡を辿る(1)京都~安中 walk (2)安中~会津、白布walk、そして仙台・東華学校跡」 報告者：田島 繁
第108回例会	2010年8月7日(土) ・①「聖書による『回心』の理解—新島襄との関連にて—」 報告者：石田 正弘 ・②「ハーディー家の人々とその子孫たち」 報告者：磯 英夫 ・③「これからの若者に新島をどう伝えていくか—新島学テキストの試み—」 報告者：頼富 雅博 ・④「Julius H.Seelye 一人と思想(その2)—」 報告者：西田 毅
第109回例会	2010年10月18日(月) ・「新島襄の足跡を辿る旅」 報告者：森永 長壹郎
第110回例会	2010年11月8日(月) ・「ゲルストン・ハーディーのことども」 報告者：北垣 宗治
第111回例会	2010年12月13日(月) ・「ポール・F・ボラー著、北垣宗治訳『アメリカン・ボードと同志社(1875-1900)』書評」 報告者：矢崎 邦彦
第112回例会	2011年1月17日(月) ・「柏木義円と朝鮮」 報告者：坂井 誠

2. 第一部門機関誌

『新島研究』第102号 A5判 182頁 2011年2月28日発行

論 叢	新島 襄の「靈魂の病」	大越 哲仁
	新島襄と森永太一郎－誕生より帰国まで	森永長壹郎
	新島襄の母とみと浦和宿の中田家	関口 徹
	－籠谷次郎氏の所説にふれて－	
	帷を開いた二人の志士－新島襄と森有礼－	大江 流
	初期同志社英学校に学んだ真鍋定造の軌跡	柿本 真代
	－伝道師から児童雑誌の編集者へ－	
	同志社創立135周年記念懸賞論文 最優秀賞作品	
	アルフィーアス・ハーディーの系譜	
	～祖父ジョシアの代から現代につながる子孫まで～	磯 英夫
史 料	新島辨治の旅日記	籠谷 次郎
	－安政三年丙辰六月廿五日「手控」－	

3. 第二部門研究（同志社社史研究）研究会（代表 伊藤彌彦）

第7回例会	2010年4月22日(木)
	・「中村栄助と京都」
	報告者：小林 丈広
第8回例会	2010年7月29日(木)
	・「同志社女専の修養会 ー1927～1944年ー」
	報告者：宮澤 正典
第9回例会	2010年10月28日(木)
	・「今出川キャンパス前史に関する一考察 ー薩摩藩二本松屋敷を中心にー」
	報告者：小枝 弘和

4. 機関誌

『同志社談叢』第31号 A5判 504頁 2011年3月1日発行

論叢	新島襄の聖書研究仲間 杉田廉卿について	樋口 雄彦
	第二回衆議院議員選挙前後の京都 －中村栄助を中心に－	小林 丈広
	『基督教青年』と関西キリスト教青年会運動	滝澤 民夫
資料紹介	新出資料の紹介	小枝 弘和
	矢野鶴子さんに聞く－蘆花夫妻の思い出－	渡辺 勲
	今出川キャンパス前史に関する一考察 －薩摩藩二本松屋敷を中心に－	伊藤 彌彦
	書簡からみる大塚節治の一九三七年	小枝 弘和
	同志社社史資料センター所蔵 徳富蘇峰宛て「外国人名士書翰」－書翰にみる徳富蘇峰の欧米漫遊－	布施 智子
	J.D.デイヴィスとN.G.クラークの往復書簡(8)	齋藤 洋子
翻訳	同志社の土着化(1875～1919)(その11)	森永長壹郎
公開講演会	第三十七回Neesima Room企画展公開講演会 「目的の大なる人物を」にふれて－現代学生との振幅で－	北垣 宗治
	第三十八回Neesima Room企画展公開講演会 島津家と近衛家－京都から薩摩への文化伝承－	真銅 正宏
		田村 省三

5. 刊行物

- ・パンフレット『同志社の文化財建築物』
日本語(2010年8月発行)、英語、ハングル、中国語(2011年2月発行)
- ・パンフレット『新島旧邸』
日本語・英語併記(2010年11月発行)

第168回 新島襄生誕記念会

日時：2011年2月14日(月)
17:00～19:30

場所：同志社新島会館大研修室



表彰

新島研究論文賞 森永長壹郎 (元同志社女子中学校・高等学校教諭)
新島研究功績賞 籠谷 次郎 (元大阪府立寝屋川高等学校教諭)

記念講演

演題：新島襄の足跡を辿る旅—ドイツ、イタリア、スイス
講師：森永 長壹郎 (元同志社女子中学校・高等学校教諭)

新島襄生誕記念懸賞論文入選者(2010年度)

【中学校の部】

最優秀賞 松本 マリ (同志社中学校1年)
『寒梅』を詠む

優秀賞 高地 美夏 (同志社女子中学校1年)
「新島襄からの手紙」
臼井 美緒 (同志社女子中学校1年)
「新島襄と山本覚馬」

佳作 藤井 満里奈 (同志社女子中学校1年)
「脱・軟骨漢」
澤田 有里 (同志社香里中学校1年)
「新島襄と温泉」
尾田 直紀 (同志社中学校1年)
「新島襄と木戸孝允～近代国家の教育～」
永田 夏奈子 (同志社中学校1年)
「新島襄と自由の精神」

【高等学校の部】

最優秀賞 阿部 梨絵 (新島学園高等学校3年)
「新島襄の死生観」

優秀賞 石丸 ゆり (同志社女子高等学校2年)
「新島襄と勝海舟」

佳作 松浦 瑠奈 (同志社国際高等学校3年)
「同志社女学校創設に見る『国際性』と『隣人愛』」
武藤 赳文 (新島学園高等学校3年)
「新島襄と彼の自己実現について」
金井 皆就 (新島学園高等学校3年)
「新島襄 三つの愛に学ぶ」
成田 有里 (同志社女子高等学校2年)
「新島襄と宣教師ニコライ」

新島旧邸

ボストンの友人J.M.シアーズの寄付によって建てられた新島襄の私邸で、和洋折衷の木造2階建て住宅として、また、同志社創立者の旧居として価値が高く、1985年に家具・調度類を含めて京都市有形文化財に指定された。

■公開日

3月～7月、9月～11月の毎週水・土・日曜日(ただし祝日、休日は除く)
春と秋の京都御所一般公開期間中の毎日および11月29日(同志社創立記念日)

■公開時間

10:00～16:00

〈2010年度見学者数〉

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	3月	合計
1,145人	1,089人	344人	328人	497人	630人	1,192人	442人	5,667人



新島旧邸外観



書斎



応接間



寺町通に面した木戸から玄関への小道

委員会

同志社社史資料センター委員会委員 (2010年度)

露口 卓也	同志社社史資料センター所長	菊地 登	中学校・高等学校教諭
土田 道夫	教務部長	瀧 英次	香里中学校・高等学校教頭
片山 傳生	企画部長	辻村 好	女子中学校・高等学校教頭
吉岡 康博	総務部長	敦賀 昭夫	国際中学校・高等学校教諭
落合 仁司	人文科学研究所長	本井 康博	神学部教授
山田 史郎	歴史資料館長	出原 政雄	法学部教授
山本 修	法人事務部長		
山田 邦和	女子大学現代社会学部教授		

同志社社史資料センター運営委員会委員 (2010年度)

露口 卓也	同志社社史資料センター所長	山田 邦和	女子大学現代社会学部教授
落合 仁司	人文科学研究所長	辻村 好	女子中学校・高等学校教頭
山本 修	法人事務部長	伊藤 彌彦	法学部教授
本井 康博	神学部教授	竹山 幸男	中学校・高等学校副校長
出原 政雄	法学部教授		

事務室	所長	露口 卓也
	事務長	落合万里子
	担当課長	福島 紀雄
	担当課長	馬淵 吉倫
	社史資料調査員	小枝 弘和
	社史資料調査員	布施 智子
	アルバイト	3名

新島旧邸	アルバイト	3名 (5名で交代勤務)
Nesima Room	院生アルバイト	1名 (8名で交代勤務)

同志社社史資料センター規程

2004年4月24日制定
2004年5月 1日施行

改正 2010年2月18日

(設置)

第1条 本学同志社社史資料センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、創立者新島襄並びに同志社関連資料の収集、整理、保存及び公開業務を継続、発展させ、同志社創立以来の歴史と伝統を後世に継承していくとともに同志社教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 同志社社史資料の研究、収集、整理、保存及び公開に関すること。
- (2) 新島研究に関すること。
- (3) 同志社社史編纂に関すること。
- (4) 『同志社談叢』の発行に関すること。
- (5) Neesima Room の管理運営に関すること。
- (6) ハリス理化学学校記念展示室の管理運営に関すること。
- (7) 新島遺品庫の管理運営に関すること。
- (8) 新島襄旧邸の管理運営に関すること。
- (9) 新島襄及び同志社建学の精神についての啓蒙活動に関すること。
- (10) その他センター設置の目的に照らして必要と認められる事業

(所長)

第4条 センターに所長を置く。

- 2 所長は、学長が任命し、センターの業務を統括する。
- 3 所長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(同志社社史資料センター委員会)

第5条 センターに同志社社史資料センター委員会(以下「センター委員会」という。)を置き、以下の事項について審議する。

- (1) センターの事業に関すること。
- (2) 社史資料調査員の候補者推薦に関すること。
- (3) その他必要な事項

(センター委員会の構成)

第6条 センター委員会は、次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 所長
- (2) 教務部長、企画部長、総務部長、人文科学研究所長、歴史資料館長及び法人事務部長
- (3) 女子大学、中学校・高等学校、香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校、から各1名

(4) 学識経験者若干名

- 2 第1項第3号に掲げる委員は、各学校長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 第1項第4号に掲げる委員は、所長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 センター委員会は、所長が招集し、議長となる。
- 5 センター委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席者の2分の1以上の賛成をもって決する。ただし、第5条第2号に係わる議決は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(運営委員会)

第7条 センター委員会に同志社社史資料センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

- 2 運営委員会は、第3条に掲げる事項について計画立案し、センター委員会の議を経てその実施にあたる。

(運営委員会の構成)

第8条 運営委員会は、次の者で構成する。

- (1) 所長
- (2) 第6条に掲げる者のうち所長が任命する者若干名
- (3) 所長が必要と認められた者若干名
- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員会は、所長が招集し、議長となる。

(事務室)

第9条 センターに事務室を置く。

- 2 事務室に職員若干名を置き、センターの事業、委員会に関わる事務、その他必要な事務を行う。
- 3 センターの事務組織は、同志社大学事務機構規程に定めるところによる。

(社史資料調査員)

第10条 事務室に社史資料調査員たる職員若干名を置く。

- 2 社史資料調査員は、社史資料の収集、整理、調査、企画、展示等の業務を行う。
- 3 社史資料調査員の選考に関する事項は、別に定める。

(事務の所管)

第11条 この規程に関する事務は、同志社社史資料センター事務室が行う。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、センター委員会の議を経て大学評議会で行う。

附 則

この規程は、2010年4月1日から施行する。

同志社社史資料センター利用要項

2009年5月19日制定
2010年5月20日改訂

(目的)

第1条 この要項は「同志社社史資料センター規程」の第3条第1号に則り、同志社社史資料センター(以下「センター」という)が所蔵する資料等(以下「資料等」という)の利用に関する必要事項を定める。

(センターの業務)

第2条 センターは、資料等の利用に関して次の業務を行う。

- (1) 閲覧
- (2) 複写
- (3) 貸出
- (4) 参考調査

(公開と利用制限)

第3条 資料等は公開を原則とするが、次のものは利用を制限する。

- (1) 新島遺品庫資料
- (2) 新島旧邸文庫資料
- (3) 非公開を条件に寄贈・寄託を受けている資料
- (4) 破損または汚損を生じる恐れがある資料
- (5) 個人情報に関する資料
 - ア) 現存者の個人情報に関する資料については、「個人情報の保護に関する規程」(法人)と「同志社大学個人情報保護委員会内規」に則る。
 - イ) 物故者の個人情報に関する資料については、以下のものの利用を制限する。
 - ① 没後50年未満のもの
 - ② 故人の重大な秘密であり、公開により遺族等に不利益を与える恐れがあるもの
- (6) センター所長(以下「所長」という)が特に指定する資料等。

(利用時間)

第4条 資料等を利用できる時間は、大学が定める休日を除いた平日の9時から17時とする。

2 所長が必要と認めたときは、利用時間を変更することがある。

(閲覧)

第5条 資料等の閲覧は、センター内所定の場所で行うものとする。

(複写)

第6条 資料等の複写・撮影は、著作権法の範囲内で行うものとする。

- 2 破損の恐れがある資料等は、複写・撮影を制限する。
- 3 出版、放映、展示等のために複写・撮影する場合は、所定の申請書を提出し、所長の承認を得なければならない。

(貸出)

第7条 貸出ができる資料等は、同志社大学学術情報システム(DOORS)に登録された図書とし、禁帯出図書と逐次刊行物を除く。

- 2 貸出ができる者は、以下とする。
 - ア) 同志社大学学生・教職員
 - イ) 同志社女子大学学生・教職員
 - ウ) 同志社大学と同志社女子大学の図書館利用カード所持者
 - エ) センターが設置する部門研究の参加者
 - オ) その他、所長が特に認めたもの
- 3 貸出冊数は5冊までとし、貸出期間は1ヶ月とする。
- 4 返却を延滞した場合は、当該資料を返却するまで貸出を停止する。

(特別貸出)

第8条 出版、放映、展示等のため資料等を貸出する場合、利用者は所定の申請書を提出し、所長の許可を得なければならない。

(紛失、汚損)

第9条 資料等を紛失・汚損したとき、所長は現物または現金による弁償を求めることができる。

(参考調査)

第10条 センターは、利用者の求めにより次の範囲で参考調査を行い、情報を提供する。

- 1 同志社関係資料の検索
- 2 同志社史に関する事実

(要項の改廃)

第11条 この要項の改廃は、同志社社史資料センター委員会の議を経て行う。

同志社大学
同志社社史資料センター報 第7号

発行日 2011年4月30日
編集・発行 同志社大学 同志社社史資料センター
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel. 075-251-3042 Fax. 075-251-3055
<http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/archives/>

表紙写真：同志社惣繪図

洋紙に毛筆で書かれた縮尺300分の1図面。小嶋佐兵衛筆。
1886(明治19)年作成。同志社に残る最古のキャンバスマップ。